さいと呼びかけるプリント配りからはじめられました。第一回目の地区懇談会が開かれ中学・高校の先生の同席も得て学習面・非行防止など〝なかみ〟の濃い話し合いがもたれその結果、まず中高生を集める事になりました。といってもはたして今の中高生がこんな話にすんなり乗って来るかどうか？親子での会話が少ない家庭ではどうやって子どもを説得しようかと不安に思われあまり乗り気でない人。せっかくだけど高校生は集まりませんよと言い出す人などでみんな心配だったようです。しかし、どうしたら一人でも多く集まってくれるだろうかと思案していても仕方がない一度集めてみましょうという事で日時を決めて実行にうつされました。その結果大人の心配をよそに「こんな集まりが欲しかった」「よろこんで行くよ」と四十三名中三十一名の子どもたちが集まりました。不参加だった中学生もバレーボールの県大会出場のためと欠席の理由がはっきりしていたようです。

総会終了後の夕食会のため、準備をする女の子たち。

この地区では以前から小学生を対象とした子ども会活動がしっかりと根をおろし、週一回の学習会や公民館での一坪図書室づくり、童話会や劇の発表会などで上級生と下級生との交流が良く行われています。こうした活動が基盤となって子ども会を離れた中高生に「こういう時でないと先輩たちと話す機会がないから」と大人の予想を越える反応を示させたようです。話し合いは高校生の司会でスムーズに進みながらも、子どもたちが満場一致で選んだ「高橋たむろ会」という名称は大人の常識的な感覚では奇異に受けとめられ反対もあったようです。他にいくつかの名称があがったものの、人びとがたくさん集りたむろする――それは楽しい会であるとの子どもたちの主張が通り「高橋たむろ会が誕生」したのです。当然「たむろ会育成者会」も同時に成立したのをつけ加えておきましょう。

高校を卒業し、会を巣立ってゆく先輩に、記念品が贈られた。

ここに見られるように、名称一つにしても大人の考え、価値観の押しつけでなく、子どもたちの考え、おもいを理解しようとする周りの大人の人びとのゆとりある接し方がこの年頃の子どもたちと信頼関係を保ち、物事を進めて行く上での大切な要素となります。その後の活動は、資金づくり、行事計画の立案と実行さらに従来からの地域の行事への積極的な参加。高校生のための音楽演奏会。今まではあまり感心されなくて、かくれて練習していたエレキバンドも公認され大ぜいの前で堂々と演奏出来るようになりました。こうして大人と子どもがふれ合う機会は増え、お互いの心の中に楽しい思い出となって深くしずんで行っているようです。

ここでもう一カ所、幼児から小学生を対象として地域での子育てに努力されている児童館を紹介してみましょう。

本渡市の中心街から車で十分足らず下田線に沿った道路の左手に平屋建の山口児童館があります。私が訪れた日曜日の午後は、二十畳ほどの板張りのホールの片側に机を並べ幼児から六年生までの子どもたちが、思い思いの格好で紙と竹の棒、木綿のひもなどを使って工作に興じていました。画用紙にクレヨンで絵を描き、厚生員の富永千賀子さんに見せに行ってはほめられて満足そうな顔で自分の席へ帰って行く女の子。工作の手はそっちのけで隣の子と突き合っている男の子の姿もあります。その日は町で他に子どもを対象とした行事があり、そちらへ出かけている者も多く集まりはあまり多い方ではないそうですが、それでも二十名は超していました。三十分程で工作を仕上げた子どもたちは、広場の方へかけ出しボールけりやなわとびをはじめました。

山口児童館へ来て、本を読む子供たち。

この児童館がもっとも活用されるのは、学校が休みの期間で、夏休み中は朝九時から夕方七時までもいるそうです。平日でも母親が働いている家庭の子どもは、下校後すぐにやって来て、家にいるよりここにいる時間の方が長く、それだけに厚生員の心くばりも大変なようです。子どもと親しくなるには名前をおぼえてやるのが一番で、学校や家庭にいる時よりも子どもたちの行動が自由でのびのびと開放感にひたれる場所にしたいと努力されています。ここでも現代っ子の例にもれず、後片づけや友だち同志でのあいさつ、おこずかいの使い方など気になる点は見られます。母親クラブの勉強会のテーマにこづかいの問題をとりあげるなどして、少しずつ良くなる方向へもって行ってるとのお話でした。時には中学生が男女間の悩みを話しに来る事もあり、母親の立場、恋人の立場になって相談にのる事もあるそうです。

子供たちにとって山口児童館は、まさしくコミュニティ広場といえるだろう。

この児童館は公民館との共同の建物なので地域のすべての会合、行事がここで行われ地区住民の一つの拠点になっています。それだけに児童館、母親クラブ、子ども会が連携して運営されており、地域のおとなと子どもが日常生活のなかで一緒に楽しく遊び、語り合いながら、お互を育て合っていけ